

令和7年度 文教企業委員会行政視察報告書

1. 期　　日　　令和7年10月7日（火）～10月9日（木）

2. 観察委員　　藤本哲智（委員長），佐伯航一郎（副委員長），檜垣美良，山上文恵，中原明夫，横地祐子，沖田範彦，福永高美

3. 観察都市

月　　日	観察先	調査事項
10月7日（火）	佐賀県鳥栖市	共通制服の導入について
10月8日（水）	佐賀県武雄市	武雄市学校教育ビジョンについて
10月9日（木）	長崎県長崎市	部活動の地域移行について 共通制服の導入について

4. 観察目的

全国的に進む少子高齢化や人口減少、情報化社会の急速な進展などにより、これからの社会が、ますます予測困難と言われる時代となってきている中、子供たちにおける教育環境においても、諸課題が想定され、対応が求められている。

現在、呉市の学校教育では、呉市教育大綱及び呉市教育振興基本計画をベースとして、未来を創る人材の育成を目標とした教育を行っている。具体的には、平成19年度から全市で進める小中一貫教育の推進を基盤とし、家庭や地域社会と協働しながら、全ての子供にとって安全・安心で信頼される学校づくりを目指している。

今後、国において学習指導要領の改訂の議論が進んでいくことが想定され、また、呉市においては、令和9年度に新たな呉市教育振興計画の策定が予定されている。

このような中、これからの中学校の学校教育について、将来にわたって持続的に発展させ、また、学校運営等における呉市の独自策を明確化し、子供たちの将来のシビックプライド醸成につなげることが重要である。そのため、将来を見据えて、これまでの教育の在り方の再検討、これからの中学校を生き抜く力の醸成を2本柱として、新たな呉市教育振興計画に向けた提言ができるよう、「持続的で魅力ある教育について」を今期の所管事務調査のテーマとして、調査研究を行うこととした。

まずは、中学校における共通制服の実施の可能性、少子化を見据えた部活動の在り方の検討、それらを包括した教育ビジョンを調査項目として、先進自治体の取組等を今後の参考とするため、視察を行った。

5. 観察内容

（1）佐賀県鳥栖市

①調査内容

佐賀県の最東端に位置し、九州の陸上交通網において、国道や鉄道の結節点であることから物流施設の集積地となっており、また交通の利便性が高いことから企業進出も多く、人口が増加している都市である。

鳥栖市の市立中学校では、動きやすさや性の多様性への配慮など、生徒の快適性を高めることを目的として、令和5年度から全校で共通の標準服が導入され、性別を問わず、生徒が機能性や好みに基づいて、ブレザー、ズボン、スカート、キュロットなどを自由に選択できるようになった。

これまでの伝統的な詰襟やセーラー服から、より多様な生徒に対応できるブレザーフォーマル形式に移行し、男女の区別をなくすことで、生徒一人ひとりが自分に合った服装を選べるようにした。また、学校ごとに異なるスクールカラーの襟章を付けることで、学校の識別ができるように工夫されている。

②質疑応答

共通制服（新標準服）の導入に至った経緯、導入のメリットやデメリット、家庭における費用負担、制服の低価格化に向けた検討、性の多様性の観点からの導入効果、制服のリユースの実施状況などについて質疑が行われた。

③呉市での展開の可能性

鳥栖市では、中学校への共通制服導入に当たり、生徒や保護者へのアンケート、検討委員会の設置など、丁寧な議論の機会を設けた上で進められており、その検討の入口段階において参考になった。特に「自分たちの制服について考える」といった機会を持つことは、無意識的に当然であると思われていた現状の課題認識やニーズを把握する上で大切であると感じた。

まずは、制服や校則といったテーマについて、生徒や保護者が考える機会を設けることがその第一歩であり、その上で、共通制服といった新たな選択肢について丁寧な調査や協議を経た上で、導入の是非や具体的な方式を検討することが必要であると感じた。

（2）佐賀県武雄市

①調査内容

佐賀県の西部に位置し、山地・盆地・平地が入り組む地勢で、市中心部にある武雄温泉で知られる都市である。

武雄市では、ICTの急速な進展や人口減少など変化が激しい現代に、子供が将来必要とする力を育み、個性を伸ばす教育を先進的に行っており。具体的には、学校や保護者、地域、企業・団体などが連携し、教育DXや官民一体型学校、英語力向上事業、多様な学びの場の充実などに取り組んでいる。

本年度、子供たちや学校に関わる全ての方に、市立小中学校の取組への理解を深めてもらうため、社会背景の変化や取組の意義・目的を整理・体系化した「武雄市学校教育ビジョン」をとりまとめ、全ての家庭に概要版を配付し、それぞれが自ら事として学校について考えるきっかけとした。

②質疑応答

教育方針における教育委員会と各学校との位置づけ、ICT教育の今後の展開、官民一体型学校の具体的な取組と成果、教職員の働き方改革と指導力向上の取組、武雄市学校教育ビジョンの検証と冊子配付の意義等について質疑が行われた。

③呉市での展開の可能性

武雄市学校教育ビジョンについて、その目指す姿を分かりやすく体系的に整理されたパンフレットの作成や、それを全世帯へ配布されている点、また、庁舎内エレベータ内など視覚的に届きやすい場所へのポスター設置といった広報戦略は、市民のシビックプライド醸成や地域全体での教育応援体制づくりや、市民理解向上のための手段の一つとして参考になった。

また、武雄市独自の学校教育の優れた点を感じた一方で、現在、本市が行っているコミュニティ・スクールなどの地域連携の取組や、タブレットを活用したＩＣＴ教育の取組など、呉の教育のよさについても、改めて再認識することができた。呉市で現在進めているタブレットを活用した授業展開の中で、これまでの紙媒体のよさも認識しながら、今後、それぞれの長所を生かした授業展開の在り方等を検討できればと考える。

(3) 長崎県長崎市

①調査内容

長崎市は、長崎県の南西部に位置する都市で、県内最多の人口を誇る県庁所在地であり、中核市に指定されている。近年は、本市同様、若者の市外への転出超過が続き、人口減少が課題となっている。

長崎市では、国の方針をもとに、休日の部活動について地域への移行を進めており、可能な範囲で、順次、平日の部活動も地域への移行を実施し、最終的には、令和9年度に完全地域移行できるようを目指している。そのため、部活動の地域移行への理解を深め、活動を円滑に進められるよう「長崎市地域クラブ活動指針」を策定し、また、地域クラブの活動では、学校と連携し教育的意義を継承・発展させることができるように、その公認制度を設けている。

また、鳥栖市と同様、令和6年度から市立中学校のうち一部の学校において、統一デザインとなるジェンダーフリー共通制服を導入している。

②質疑応答

部活動の地域移行では、指導者の確保や地域の受け皿、生徒や保護者の反応、地域クラブ活動指針と地域クラブ認定制度、教員の負担軽減、経費の負担方法などについて、また、共通制服の導入では、共通制服への生徒の反応、リユースへの対応、児童生徒のシビックプライド醸成、導入に係る教育委員会の関わり方などについて質疑が行われた。

③呉市での展開の可能性

部活動の地域移行については、国の指針も示されている中、その指導者の確保や交通費の支援など、地域の実情に合い、かつ平等性を確保できるような方策を講じる必要があると感じた。子供たちが安心して部活動ができるように、市として予算措置も含め、しっかりと学校全体を支えていく体制づくりが求められると同時に、現在、いくつかの種目によっては合同チームとして動いていることから、その支援や協力の在り方を検討すべきであると思う。呉市においては、今後、生徒数の減少も見込まれるため、複数校合同での部活動の形態を考慮し、地域の実態に応じた地域移行への検討が必要であると考える。

また、共通制服の導入について、長崎市では教育委員会が指導的な役割を持って調整に取り組むことで、多様性や機能性への対応、経済的負担軽減といったニーズに応えようとされた点が、将来的な学校教育の持続性を高める上で重要だと認識した。一方で、物価高騰の影響により、コスト軽減効果の実感のしにくさといった課題も示され、コスト面が最も高いハードルとなると感じた。安価で良質な制服提供のためには、単なる統一化に留まらず、流通・リユース・参画メーカー・販売店の範囲など、多角的な工夫が必要であると感じた。